

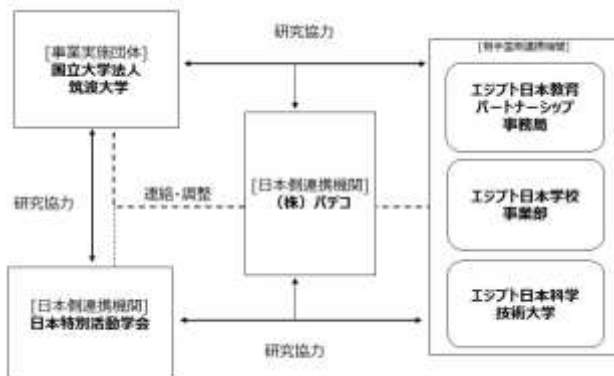
エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動（Tokkatsu）の現地化の実態を調査し、個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力に与える影響を明らかにする。加えて、エジプトの関係者と共同で、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを作成することを通じ、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発する。

## 事業の目的

エジプトにおいて4つの活動を実施することで、国際的通用性と倫理性を備えた日本型教育Tokkatsuを開発する。

- A. Tokkatsuディプロマの共同開発
- B. 非認知能力育成の効果検証
- C. 現地化に関するインタビュー調査
- D. カイロ日本人学校（CJS）とエジプト日本学校（EJS）との交流活動

## 実施体制



## これまでの活動内容・アウトプット

A. Tokkatsuの成果を共有し、未来を展望する会議を開催し、大学最高評議会、国立大学、教育省、エジプト日本科学技術大学、日本特別活動学会が参加した。

C. EJS 3校を訪問し、教師8名、児童15名、指導主事10名に、1人30～60分のインタビューを実施した。

B. 4つの学級会を参与観察し、教師2名・児童6名に1人30分の事後インタビューを行った。教師、保護者、行政関係者、計20名でTokkatsuの効果を検証した。

D. CJSの教師2名、EJSの教師12名、他の日本の教師等9名で模擬学級会を行い、直後にグループで振り返りを行った。



A. Tokkatsuの追加教員資格の開発に向けた議事録への署名



B. EJSにおける、小学校5年生による学級会の参与観察



C. 児童に対するインタビュー調査の様子



D. CJSとEJS合同による学級活動の授業研究（模擬学級会）

## 今後の展望・担当者からのメッセージ

- ・【知見】EJSにおいて、Tokkatsuは単なる形式ではなく哲学として理解されていた。児童は他者と協力し、認められる機会が増えたことで自信を獲得し、教師は児童を中心に置いて実践している。公立学校への普及が、課題といえる。
- ・【展望】パイオニア校を含めた公立校で、追加の調査を行う。「主張することを認め合う」エジプトの学級会を逆輸入し、日本で社会実装に向けて試行する。



調査研究  
ウェブサイト

国立大学法人筑波大学 京免 徹雄（人間系・教育学域）、相庭 貴行  
（人間総合科学学術院・教育学学位プログラム）

TEL : 029-853-4590, Email : kyomen@human.tsukuba.ac.jp